

ふる



「忠臣蔵三百年」48番目の義士

萱野二平重實(2)

三平の家族

萱野二平は、父重利が48歳、母小まんが44歳のときの延宝3(1675)年に、萱野村で誕生しました。母小まんは、最初は重利の兄「重次」に嫁ぎ、男女一人づつ出産しました。しかし、重次が若くして亡くなつたため、弟の重利の妻になり、7人の子を出産しています。

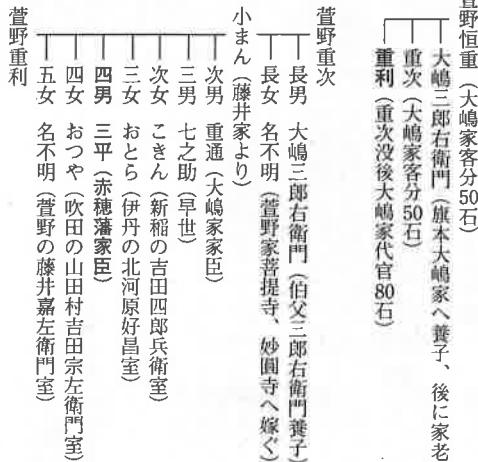
文中の「萱野二平略系図」を参照していただくと分かります

が、三平は、父の三男、母にとつては四男になります。父重利

は三男でしたが、長男が大嶋家の養子となり、次男重次が早くして亡くなつたため、萱野家を継ぐことになりました。長男

「大嶋三郎右衛門」は、美濃の旗本「大嶋茂兵衛」に跡継ぎがないため、養子となりました。

後に実子が誕生したため、別に家を興して大嶋家の家老になります。



現在、萱野の共
同墓地にある三平の墓は、好昌とどちらの三男「長好」が、三平の死後39年後に建てたものです。

ましたが、跡継ぎがないため、重次と小まんの息子（母が同じで父が違う三平の兄）を養子に迎えています。

通説によると、貞享4(1687)年、12歳になつた二平は、播州赤穂の城主、浅野内巧頭長

矩に仕官しました。四男の三平は、父の跡を継ぐことができなかつたため、父の主君、大嶋義

近が三平を浅野家へ推挙したと伝えられていますが、大嶋家の家老が伯父であり、兄がその家

老の養子であるということから、三平にとつての大嶋家は、単に父重利の主君である以上の深いつながりがあります。

後に三平の切腹は、三平を挙げた大嶋家に迷惑がかかることを心配して反対した父への孝行と、主君の浅野家への忠義の

嫁ぎ先は、父が違う長女（名前は不明）は、豊中市庄内にある萱野家の菩提寺「妙圓寺」へ嫁ぎ、三女の「おとら」は、伊丹の作り酒屋で、俳人としても著名な北河原好昌に嫁ぎました。そのほかの姉妹が嫁いだ新稻の吉田家、萱野の吉田家、萱野の藤井家は、いずれも近隣では有名な庄屋の家でした。

板挟みが原因として伝えられていますが、大嶋家の家老である伯父と、その養子になつた兄の存在も影響したのではないでしょ

うか。三平は切腹の半年前に、美濃に在住する兄、大嶋三郎右衛門を訪ねています。

三平は切腹の半年前に、三平の死後39年上は、大嶋家の家臣として仕え、俳人「紅山」と

しても活躍しました。92歳とい

う当時としては異例な長寿で、萱野家を継いだ兄重通(三平より10歳年上)は、伊丹

宝暦6(1756)年に亡くなつて

おり、3人の姉と2人の妹の兄七之助は、幼くして亡くなつ

っています。また、もう一人の嫁ぎ先は、父が違う長女(名前

は不明)は、豊中市庄内にある萱野家の菩提寺「妙圓寺」へ嫁

ぎ、三女の「おとら」は、伊丹の作り酒屋で、俳人としても著

名な北河原好昌に嫁ぎました。その